

# めしば元の朝



- 企画:北九州市 北九州市教育委員会 北九州市人権問題啓発推進協議会
- 製作:東映株式会社 ■アニメーション制作協力:ジェイ・シー・エフ
- プロデューサー:鎌田幸人 ■声の出演:櫻井孝宏/野沢雅子 ほか
- 監督:西沢信孝 ■脚本:山上梨香 ■テーマ曲:児島由美
- 16ミリ版/ビデオ版(16ミリ、ビデオの字幕入りもごさいます)

## 違いを認め合って、共に生きる社会を

北九州市人権啓発映画制作委員長 柿嶋 譲

「うちの野菜も形がばらばらで『規格外』も多いけど……でも、味はいいだろう。人間もそれぞれ違うし、それぞれに味がある。それが個性ってやつで、亜衣ちゃんは亜衣ちゃん。それでいいんじゃない?」

「亜衣ちゃんが自分達とちょっと違うからって、除け者になっている人達も、きっと損をしていると思う……」

雅志・裕子夫妻が不登校になっている少女亜衣に語りかけた言葉です。

「自分らしく生きるには、どうしたらいいのだろう?」常日頃、思い悩む陽介の胸にも響いたことでしょう。

他の人の違いを認めること、自分を大切に自己を確立することが、人権を尊重する社会を作り上げる基礎であると言われます。

違いを認めない心が時として差別を生み出すものになることがあります。人は一人一人が違って当たり前、みんなが違うから面白いのです。それぞれの違いを互いに認め合い、自分以外の人の感情や感覚、考え方や行動に共感し、自分との違いを受け入れそれを尊重していくことが出来たら、共に生きる社会を作り上げることに繋がっていきます。

「生れ持つ 君の個性が 宝物」

平成十五年の人権週間に北九州市が募集した標語の入選作品です。

自己確立のためには、人とは違う自分の個性を認め、それを十分に伸ばすことが重要です。

陽介は、このことに気付いていくのです。人との交わりの中から、求めていた答えを出したのです。とりわけ、身の周りの差別されている人達の心の痛み・無念さ・怒りを共感し、差別をなくそうと行動することでしっかりとつかんでいくのです。

陽介が額に汗して耕した畑に、自ら播いた種が芽を吹きます。やがて実を結ぶでしょう。希望に満ちた明日です。それは、陽介だけのものではなく、共に生きる社会の実現を願うみんなのものでもあるのです。

16ミリ版 278,250円  
ビデオ版 84,000円  
価格は税込 [C#7364]

【上映時間41分】

## 《ポイント》

同和問題、男女共同参画、相互理解、個性の尊重、自尊感情等

### 制作のねらい

だれもが生きる喜びを感じ、夢を持ち、安心して暮らしていくためには、一人ひとりの人権が尊重される、平和で豊かな社会を築いていかなければなりません。

「人権の尊重は大事なことである」ということは、だれもが分かっていることのように思われます。しかし、周りの人や自分の言動を振り返ってみると、どうでしょうか。自己中心的な考えから、あるいは固定観念や他人の意見に左右されて、相手を認めようとしていないこともあるのではないのでしょうか。

この映画は、新しい生命の誕生を控えた家族とその周りの人々のふれあいや葛藤を通して、「相手を理解すること」、「尊重し合うこと」、そして「自分の問題として行動すること」の大切さやすばらしさを描いたものです。

この作品を通して、だれもが自分らしく幸せに生きていけるように、さまざまな人権問題を自分自身の問題として考えて、行動していただきたいと思います。

### あらすじ

高校2年生の山吹陽介は、何ごとにもやる気を持たずに毎日を過ごしていた。当たり前のように大学受験を勧める両親・一雄と絹子にも反発を感じている。陽介が慕っているのは、いつも励ましてくれる同居の祖父・寛一と、郊外で農場を営んでいる叔父・雅志である。しかし、寛一と雅志は28年間も会っていない。雅志が寛一の反対を押し切って同和地区出身の裕子と結婚したからだ。

陽介は、時々、雅志の農場「山吹ファーム」で野菜作りの手伝いをしている。久しぶりにファームに行くと、カンボジアからの農業研修生フェイがいた。フェイは、陽介に「あなたの夢は何ですか?」と問うが、陽介は答えられなかった。そこへ、大学生の恵美と中学生の亜衣がやって来た。恵美は、不登校になっている亜衣のメンタルフレンドで、その日は2人で植えたニンジン収穫しに来たのだった。

陽介がファームから帰ると、出産を控えて帰ってきた姉・星野美美が、夫の良彦と言い合っていた。美美は出産後も仕事を続けたいと言うが、良彦は、「おふくろが、子育ては母親の仕事だからって…」と言い、態度が煮え切らない。憂鬱な表情の美美を見て、陽介は山吹ファームの収穫祭に誘う。

収穫祭は、多くの人でにぎわった。その中に、恵美や亜衣もいた。雅志と裕子は、「みんな違って当たり前」と亜衣に優しく語りかける。その様子を見ていた陽介と美美は、雅志たちに、断絶している寛一との関係がこのままでいいのかと迫る。その最中、突然、美美が産気づいた。

美美は、このファームで生みたいと言う。一雄と絹子は、この日結婚式に出席していて、すぐには連絡が取れない。美美が診察を受けていた助産師は寛一の知り合いだということを思い出した陽介に、何かをひらめいた。陽介は、家で留守番をしている寛一に電話をかけ、助産師を連れてきてほしいと言う。寛一は、雅志とのことを28年間ずっと思い悩んでいた。「先生を早く連れてきて…」という美美の言葉に、あせる寛一。いろんなことが頭の中をよぎる。そして、ついに決心した。



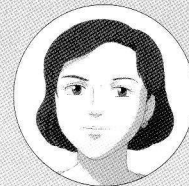
山吹 陽介 (17)  
高校二年生



山吹 一雄 (55)  
陽介の父



山吹 絹子 (54)  
陽介の母



星野 美美 (28)  
陽介の姉



山吹 寛一 (80)  
陽介の祖父



山吹 雅志 (52)  
陽介の叔父



山吹 裕子 (50)  
雅志の妻

 **東映株式会社 教育映像部**  
<http://www.toei.co.jp/edu/>

関東営業所 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631  
関西営業所 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026  
広島出張所 広島市中区国泰寺町1-5-31 〒730-0042 ☎082-249-3930  
高松出張所 高松市本町11-7 〒760-0032 ☎087-851-3766  
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……

**北辰映像株式会社**